

令和3年度 大謝名小学校の取り組み

1 研究主題

英語に親しみ進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～言語活動の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

近年、グローバル化社会が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力の向上が求められている。学校で行われる外国語活動においても、従来の「慣れ親しむ」から、ある程度の「習得・活用の力」を育成する必要がある、カリキュラムの再編成と指導の準備を行わなければならない。

本校では、これまでも歌やゲーム、簡単な会話練習、ICT や図書などを取り入れ、幼稚園を含む全学年の児童が楽しく活動できる工夫に努めてきた。その結果、児童の多くが「英語の授業が楽しい」と答えており、意欲的に授業に取り組む様子が見られた。しかし、新学習指導要領の先行実施に伴い、これまでの「説明・練習→コミュニケーション活動」という流れではなく、「コミュニケーション活動の中で、自力で既習事項を思い出して使いながら、自然に習得していく」ための授業づくりへと変えていく必要がある。「楽しい」だけでなく、目的や場面、状況に応じて、伝えたい内容に即した伝えるための英語表現の習得を図る工夫が課題となっているのである。

そこで、今年度は、低学年からの既習事項を系統的・総合的にスモールステップで積んでいき、言語活動の工夫を通して、相手に配慮しながら工夫して伝え合おうとする児童の育成を図りたいと考え、上記の主題を設定した。

ゲームや歌、単語練習で終わるのではなく、歌詞の一部を自分に関することに置き換えて表現したり、相手の反応を見て、ジェスチャーなどを使い工夫しながら Smalltalk を行ったりする活動を通して、自分の思いを伝える力を育てていきたい。また、伝え合う活動を通して、相手を理解し、互いに認め合うコミュニケーションの資質・能力を高め、主体的・対話的な深い学びを目指していきたい。

3 研究の主な内容

(1) 目標

- ①外国語活動を通して、自他の文化や生活習慣などに対する興味・関心・意欲の育成を図る。
- ②外国語活動を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。
- ③外国語活動を通して、コミュニケーション能力を育て、他者を理解しようとする態度を育成する。

(2) 指導方針

- ①児童の実態に応じ、系統的な年間指導計画の作成を行う。
- ②単元終末段階の児童に臨む具体的な姿のイメージをもち、単元を見通した課題設定をする。
- ③4月に各学年で外国語活動の進め方の共通理解を図り、ALT や JTE とのティームティーチングの仕方などを確認する。
- ④学年会の時間に、ALT/JTE と HRT による次週の打ち合わせを毎週行い、授業の内容と進め方を確認し、学年の共通理解を図る。
- ⑤全学年の児童が ALT や JTE と交流するために、前半（4月～10月中旬）と後半（10月中旬～3月）で担当学年を交換して指導を行う。
- ⑥資料や掲示物の工夫により、英語ルームの環境を整える。

- ⑦授業開始, 終了の黙想, グリーティング, 学習ルール確認などの授業の流れを全学年で統一して行う。
- ⑧教材・教具・ワークシートの工夫を図る。
- ⑨多様な学習活動を組み合わせた授業づくりとペアやグループなどの学習形態の工夫を図る。
- ⑩ICT 機器を活用した言語活動の充実を図る。
- ⑪毎時間, 振り返りカードを書く時間を設け, 児童が学習の見通しを立てたり, 振り返ったりできるようにする。
- ⑫委員会活動や行事において英語アナウンスを取り入れ, 英語表現に触れる機会を設定する。
- ⑬クリスマスやハロウィンなどの異文化の行事に触れさせ, 児童の視野を広げるとともに, 異文化を尊重する態度を育てる。

4 各学年の目標

学年		目標	題材
低学年	触れる	<ul style="list-style-type: none"> ・歌, リズム遊び, ゲームなどの活用を通して, 英語のリズム, イントネーションを体で感じ取り, 楽しく英語に触れる。 ・英語をよく聞き, 大きな声でまね, 意思表示がはっきりできる。 ・外国のことに興味・関心を持ち, コミュニケーションを図ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・自己紹介・体調・曜日 ・天気・数・色・学用品・野菜 ・動物・虫・体の部分・好きな物 ・嫌いな物・ハロウィン ・日本の遊び・外国の遊び・ ・クリスマス・英語の歌 ・チャンツ
中学年	慣れる	<ul style="list-style-type: none"> ・歌・リズム遊び, アクティビティなどの活動を通して, 英語のリズム, イントネーション, 基本的な英語表現に慣れる。 ・英語での挨拶や簡単な英語でのやり取りを進んでやろうとする。 ・聞きたいこと, 言いたいことを中心にコミュニケーションを図ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・自己紹介・体調・月 ・曜日・天気・数・果物・野菜 ・学用品・色・動物 ・アルファベット・体の部位 ・動作・遊び・衣類・生活日課 ・英語の歌・チャンツ
高学年	親しむ・伝え合う	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり, 使ったりする活動を通して英語に親しむ。 ・相手の話す英語をよく聞き, 伝えたいことを簡単な英語で話すことができる。 ・生活や考え方を尊重しつつ, コミュニケーションを図ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・自己紹介・行事・月 ・日付・感情・飲食物・スポーツ ・生き物・色・形 ・アルファベット・学用品・教科 ・曜日・職業・動作・位置・場所 ・値段・施設・道案内・世界の国 ・世界の童話・動詞の過去形 ・can・三人称・英語の歌 ・チャンツ

5 外国語評価について

教師の指導の改善を図ると共に児童生徒自身が自らの学習を振り返り、PDCA プロセスを実行することを心掛け、各学年の以下の評価結果により、単元の時数を変更したり次回に復習の時間を追加することによって、児童への定着を図るようにしている。

1年生

スタンプシート



① ふりかえりの発表：

毎時間の Reflection タイムに、なるべく多くの児童生徒に外国語について気づいたこと、学んだことや難しかったことを発表させる。

② スタンプシートを利用：

授業の終わりに、積極的に授業に参加した児童はスタンプをもらう。

③ 前半・後半に自己評価シートを記入：

生徒児童が年に2回自己評価シートに分かったことや楽しかったことを記入する。

2年生

① ふりかえりの発表：

毎時間、Reflection タイムの時に、なるべく多くの児童生徒に発表してもらう。学んだことや難しかったことを発表させる。

② 評価カードを利用：

単元の終わりにミニテストを行う。HRTとALT/JTEが児童生徒一人一人に学びの確認をする。1回で答えられたら、“●”（青）のシールを単元の達成枠に貼る。間違えたら、2回目にはもっと簡単な質問をする。当たった児童には“●”（黄）のシールを貼る。2回目も間違えたり、答えられなかった場合は“●”（赤）のシールを貼る。単元によって特別シールを貼ったりして、楽しい評価カードとしている。シールの色を授業の終わりに確認し、指導の改善が必要な場合及び、改善方法が明らかになっているときは、次のクラスで指導変更を行う。改善方法の検討が必要な場合は学年で確認を行う。

My English Evaluation Card



3年生・4年生

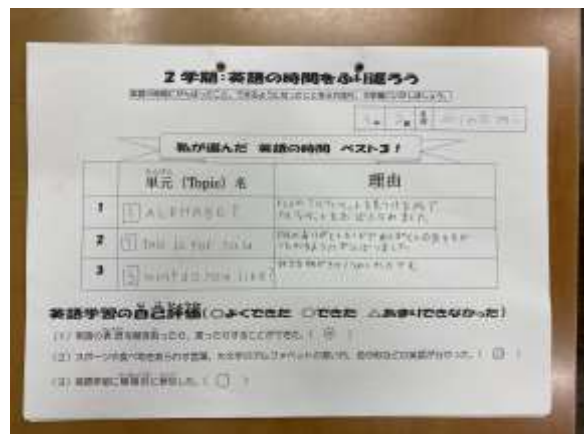
① 自己評価シート：

毎時間、児童生徒が記入する。難しいと記入した児童数が多い場合、次の授業の内容を変更している。

② 学期末評価シート：期末に自己評価を行う。できたことや頑張ったことを評価する。

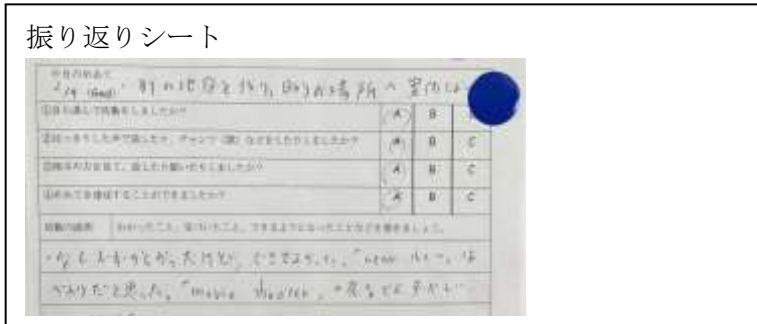
③ アクティビティー内で発表できた児童も評価する。

自己評価シート & 学期末評価シート



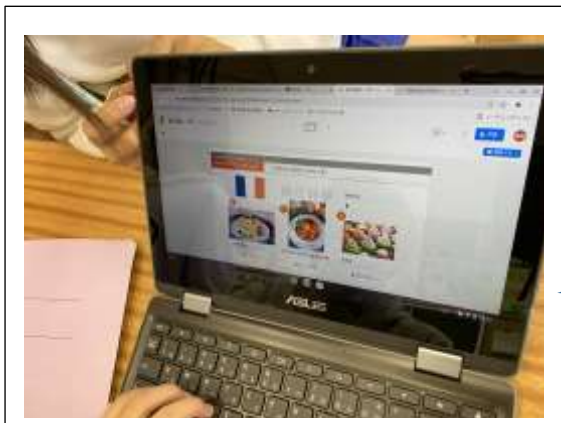
5年生・6年生

- ① ペーパーテスト：
市販の教材テストを利用している。
- ② アクティビティー内評価：
ペアやグループでのアクティビティーでは、HRTとALTで児童の振り返りシートにシールを貼る。
(シールの色で分かりやすくする：●(青)⇒a, ●(黄)⇒b, ●(赤)⇒c)
- ③ プレゼンテーション・スピーチ：
単元の終わりに一人若しくはグループで発表する。HRTがa, b, c評価を判断する。



(2) 活動の様子

① タブレット端末を使って外国の食べ物について調べて発表する授業展開



Jamboard のテンプレートを利用し、グループで決めた国の料理を調べてオリジナル・メニューを作成する。

レストランのロールプレイで、オリジナルメニューを利用して注文をする。



児童は選んだメニューを工作で作り、ロールプレイの日に持ちより、より楽しい授業となりました。

(2) 活動の様子



学校内の地図を準備して、ペアで場所案合いを
する活動。

教科書を確認しながら、
英語で学校の場所を言
おうとする。



【各学年の様子】

1年生 歌や外国の行事のお話しを聞き取る。



2年生 聞き取った色や形を使って，タブレットを利用して絵を描く。



②中学年（慣れる）英語の聞き取りと簡単な会話に重点を置いた授業展開

3年生 「What's this」クイズを出し合う。



4年生



③高学年（親しむ・伝え合う）英語の聞き取りと会話に重点を置いた授業展開

5年生 学校内を案内する。

6年生 校長先生の夏休みの話を英語で聞く。



6 成果と課題

(1) 成果

- JTE と ALT を変更し、学習スタイルが変わり、メリハリがついて児童の意欲が向上した。
- ICT や教材教具の工夫により、児童が興味関心を持って楽しく学習することができた。
- 既習のフレーズが言えるかの確認を行うことで、少しずつ定着する様子が見られた。
- 楽しく取り組める歌やダンス、ゲームを取り入れることで、親しみをもちながら意欲的に参加する児童が増えた。
- 低学年のうちから ALT・JTE の生の英語を聴きながら、まねっこ遊びの感覚で自然に発音が身に付いた。
- JTE・ALT が作成したレッスンプランのたたき台をもとに HRT と打ち合わせを行うことにより、児童の興味や実態に合わせた授業展開ができ、英語に対する苦手意識を感じないで取り組む様子が見られた。また、打ち合わせもスムーズに進められた。
- JTE, ALT とともに勤勉で、英語を学んでいる日本人目線、児童目線にたち、細かく児童の疑問に答えていた。それにより、児童の国際的視野の広がりが見られた。
- 行事と関連付けた学習内容にすることで、生き生きと英語で表現することができた。
- 中学校を意識した授業を実施することで、単語から会話文で理解できるようになり、書く力も向上しつつある。
- Reflection タイムの時に、振り返りを書いてコメントを発表することで、本時のめあてを意識して取り組めた。
- 授業のまとめや学期ごとに振り返りを書かせることにより、評価がスムーズにできた。
- タブレットを使い、外国の食べ物を調べることで外国に興味をもち、ロールプレイングで発表をすることができた。

(2) 課題と改善案

課題	改善案
<ul style="list-style-type: none"> ●机、椅子のない教室で書く活動を行うには、やりづらさがある。 ●電子黒板や拡大スクリーンが必要な時は、学年教室を使う時があるが、移動も大変である。 ●床に1時間座れない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レッスンプランに応じて学年教室を使用することで児童の活動にやりやすさがでる。
<ul style="list-style-type: none"> ●英語習得に苦手意識をもっている児童が積極的に授業に参加できない場面がある。 ●学んだフレーズを活用する場面が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な教材（絵本・歌・動画）を用いて、楽しく活動できるようにする。 ・英語のシャワーをたくさん浴びせ、慣れさせていきたい。 ・授業のアクティビティにゲームを入れて意欲を高める。
<ul style="list-style-type: none"> ●打ち合わせの時間がなく、授業プラン作りを ALT や JTE に任せている面がある。 (年計の週時程には組み込まれているが、行事や会議等のためにできないことがある。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・少しでも関わられるように打ち合わせの時間を工夫する。 (单元ごと・2週間に1度、打ち合わせに参加するなど)
<ul style="list-style-type: none"> ●掲示物の刺激が多い為、集中できない子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書や前面掲示を簡素化する。
<ul style="list-style-type: none"> ●高学年の授業を楽しくできるかが課題。また、教材作成に時間がかかる。 ●引継ぎに関する細かい話し合いの確保が困難。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能ならば、JTE た ALT だけでなく、学年で一緒に作成できる時間を設けたい。(長期休業中は任用期間が切れるのが課題)